

印刷博物館 P&P ギャラリー企画展

『グラフィックトライアル 2019 -Exciting-』開催 ～グラフィックの可能性を印刷で探るポスター展～

[会期] 2019年4月13日(土)～7月15日(月・祝)

[参加クリエイター] 葛西 薫／テセウス・チャン／高田 唯／山本 暁

凸版印刷株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:金子真吾)が運営する、印刷博物館 P&P ギャラリーでは、4月13日より「グラフィックトライアル 2019 -Exciting-」を開催いたします。

平成最後を飾る今回は、葛西 薫氏、テセウス・チャン氏、高田 唯氏、山本 暁氏という、印刷に精通した4名のクリエイターにご参加いただき、『Exciting (エキサイティング)』という作品テーマで印刷グラフィック表現の可能性を探ります。あえて印刷のタブーに挑戦する、紙ではないものに印刷する、汚れたような表現を目指す…など、世代も作風もバラエティに富んだ4名がエキサイティングな試行を重ね、刺激かつ魅力的な表現を目指します。

展覧会では、クリエイターの独創的なアイデアと印刷技術を組み合わせて完成させたポスターと、制作過程での数々のトライアルをご紹介します。

開催概要

タイトル	グラフィックトライアル 2019 -Exciting-
会期	2019年4月13日(土)～7月15日(月・祝)
時間	10:00～18:00
休館日	毎週月曜日(ただし4月29日、5月6日、7月15日は開館)、4月30日(火・祝)、5月7日(火)
会場	印刷博物館 P&P ギャラリー(文京区水道1-3-3 トップパン小石川ビル)
入場料	無料(ただし印刷博物館本展示場にご入場の際は入場料が必要です)
主催	凸版印刷株式会社 印刷博物館
企画	凸版印刷株式会社 トップパンアイデアセンター
後援	公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)

展覧会 WEB	http://www.toppan.co.jp/biz/gainfo/graphictrial/2019/
公式 twitter	@graphictrial
公式 instagram	@graphictrial
公式 Facebook	@グラフィック・アーツ・センター(凸版印刷)

グラフィックトライアルとは

トップクリエイターと凸版印刷が協力して印刷実験を繰り返し、新しい印刷表現を探る企画。2006年からスタートし、今年で14回目を迎えました。

色数、用紙、インキ等に極力制限をつけず、究極の色再現やリアルな質感再現などクリエイターがイメージする表現を、印刷技術の力によって最大限引き出します。印刷実験の成果を活かした5枚のB1ポスター作品と実験過程のテスト刷りや印刷技法を開示します。グラフィックトライアルでは、紙と印刷が持つ豊かな表現の可能性を追求し、デジタル媒体にはない新しい表現の創出に挑戦していきます。

グラフィックトライアル 2019のポイント

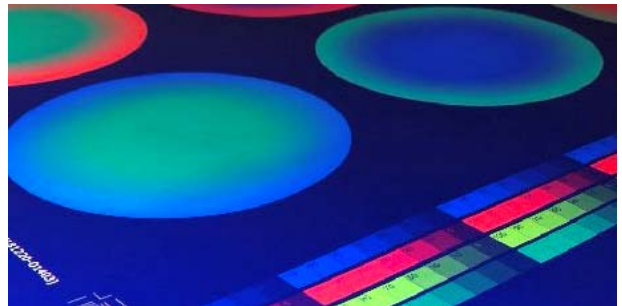
①インキ開発による究極の漆黒

求めたのは「最も黒く・強い黒」。それを実現するために、一般的なインキの調合ではなく、素材にまで遡って見直したインキを特別に開発。印刷適性が低い素材を使って見事な漆黒を表現することに成功しました。



②トライアル史上初・光のRGB印刷

「蛍光マーカーのような発色」を追求し、RGB印刷に挑戦。通常のインキでは再現できなかった色を、光の力を借りて実現しました。3色の掛け合わせによる不思議な色空間は必見です。



関連イベント

デザイントーク

クリエイター全員とPD（プリンティングディレクター）によるトークセッションと、テセウス氏による特別講演を行います。（同時通訳つき）

日時 2019年4月13日（土）14:30～17:00

会場 印刷博物館 グーテンベルクルーム
（東京都文京区水道1-3-3 トッパン小石川ビル）

出演 葛西 薫／テセウス・チャン／高田 唯／山本 暁
PD： 田中一也／尾河由樹／富永志津／高本晃宏

※定員：80名／参加費：無料

※事前予約制（先着順）：お申し込みは以下展覧会WEBよりお申し込みください。
（3月12日より申込開始）

<http://www.toppan.co.jp/biz/gainfo/graphictrial/2019/#Event>



葛西 薫

アートディレクター
株式会社サン・アド

「興奮」

印刷物には、まずは伝えたいものがある。その裏側にしっかりテクニックがあるからこそ、ちゃんと伝えることもできるように思う。この作品で伝えたいのは、僕の思い出である。エキサイトしたあの瞬間は皆さんに伝わるだろうか。



1949年札幌市生まれ。文華印刷、大谷デザイン研究所を経て、1973年株式会社サン・アド入社。主な仕事に、サントリーウーロン茶、ユニテッドアローズ、虎屋の広告制作およびアートディレクションのほか、サントリーのCI、六本木商店街ネオンサイン、映画・演劇の宣伝制作、装丁など活動は多岐にわたる。東京ADCグランプリ、毎日デザイン賞、講談社出版文化賞ブックデザイン賞など受賞。近作に「TORAYA CAFÉ・AN STAND」のCI・パッケージデザイン、『クレーの日記』の装丁など。著書に『図録葛西薫 1968』がある。



六本木商店街振興組合
六本木交差点ネオンサイン



みず書房「クレーの日記」



テセウス・チャン

アートディレクター
WORK

「Colour Noise」

私にとってデジタルグラフィックデータは有機物のようなものです。ミキサーに有機物が放り込まれ、その中で動きをとめた無限の深みの中へと崩れ、崩壊してゆく、そんなカラフルな抽象映像が生まれるさまを想像しました。



1961年シンガポール生まれ。ヴィジュアル・アートと印刷媒体を中心に活動。自身が発行する雑誌『WERK（ヴェルク）』は、既存のブックデザインへの破壊的挑戦として知られている。作品は香港のM+、ニューヨークのクーバー・ヒューイット国立デザイン博物館などに所蔵され、コム・デ・ギャルソンやシュタイデル、田名網敬一など多数とコラボレーションを行っている。2006年シンガポールで最も栄誉あるデザイン賞、プレジデント・デザイン・アワードにてデザイナー・オブ・ザ・イヤー受賞。D&AD yellow pencil、NYADC、東京TDC賞。AGIメンバ



STEIDL-WERK No. 23: "DEFORMED" MASAHO ANOTANI

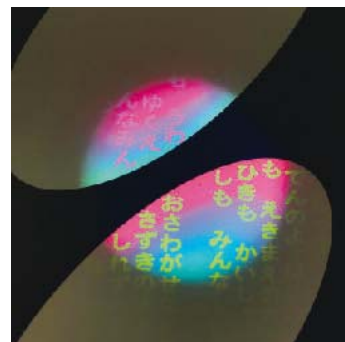


高田 唯

グラフィックデザイナー
株式会社 Allright

「見えない印刷」 詩：ウチダゴウ

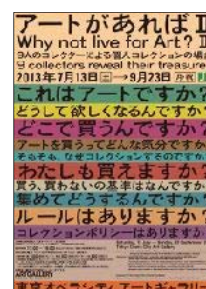
光の青色を追いかけて行き着いた“光のインキ”です。インキではどうしても表現できなかった色、光の力を借りて実現しました。紙がモニターになったような不思議な感覚にドキドキしながら、ポスターに隠れている言葉と色を探してください。



1980年東京都生まれ。桑沢デザイン研究所卒業後、2006年にデザイン事務所 Allright Graphics、翌年に活版印刷工房 Allright Printing を設立。活版印刷工房を営みながら、デザインの仕事を手がけ、作品はロゴマークやサイン、広告、装丁、パッケージデザインなど多岐にわたる。2017年に音楽レーベル Allright Music を設立。2017年、個展『遊泳グラフィック』を銀座で開催後、台中（台湾）と上海でも個展を開催。2011年 JAGDA 新人賞、2015年日本パッケージデザイン大賞金賞、桑沢賞。東京造形大学准教授。



JAGDA



東京オペラシティ
アートギャラリー

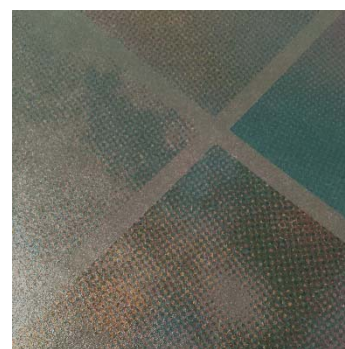


山本 暁

アートディレクター
凸版印刷株式会社

「オフセット印刷の不良」

印刷は版や紙、インキに左右され想定外な現象を引き起こすこともあります。不良とされることもコントロールできれば魅力的な手法になると考えました。ネガティブな事象をポジティブな表現へとひっくり返す、エキサイティングなトライアルを試みます。



1987年神奈川県生まれ。多摩美術大学美術学部卒業後、凸版印刷株式会社入社。トップアイデアセンタークリエイティブ本部在籍。入社後、カタログ・WEBなどの企業の販売促進、コミュニケーションツールの制作に携わる。現在は企業が発行するカレンダーのアートディレクションを中心に企画・制作を行っている。NY TDC 入選、全国カタログ展・全国カレンダー展受賞。「プブブプレゼンカ」ブックコンペティション最優秀賞、森岡書店にて「プブブプレゼンカ展」を成田久氏と開催。



Renesas



成田久「プブブプレゼン」